

鳥羽とば〔洛外にして、四ツ塚づかより南七町にありて、上鳥羽かみとば、下鳥羽しもとばと二村にわかる。上鳥羽北の端を出在家といふ、民居あり〕

○作路〔四ツ塚づかより鳥羽とばに至る、今の道にあらず。四ツ塚づかより半町ばかり東に、羅城門ありて是より鳥羽とばに至る街道筋なり。今堀川ほりかはの下流の東に一壇高き細路あり、これ作り路の遺跡なり。今の封疆数は秀吉公ひでよしの時作れるなり〕

徒然草曰 鳥羽とばの作り道は鳥羽殿とばどのたてられて後の号にはあらず、むかしよりの名なり。元良親王もとよししんわう元日の奏賀の声甚だ殊勝にして、大極殿だいごくでんより鳥羽とばの作り道まで聞えける、李部王りほうわうの記に待るとかや。〔鳥羽和歌に詠ず〕

続後撰 雲井飛かりの羽風に月冴てとば田の里に衣うつなり 後 鳥羽院

新続古 白雨の名残の雲を吹風に鳥羽田の早苗末さわぐなり 後 京極撰政

苺萱堂かやんだう〔上鳥羽村かみとば薬師町やくし西側にあり、浄土宗にして誓祐寺せいいうじと号す。苺萱道心かるかやだうしん円空法師えんくうはじめ比叡山に登り薙髪し給ひ、其後紀州高野山きしゅうかうやさんに趣き給ふ、折から此地に庵室を結んで三四年があひだ居住し給ふ旧跡なり、故に今においてかやん堂という。苺萱道心かるかやだうしんは建暦元年四月廿四日高野山かうやさんにおいて寂す〕

本尊阿弥陀仏〔坐像五六寸ばかり、即ち苺萱道心の念持仏にして、此地に遺し給ふ。それより星霜累りて、天和元年十一月三日本堂厨とも類焼す、苺萱の什物等ありといへども此時灰燼となる。本尊は本堂の坤ひつじさるの方竹林かたちくりんの中に飛去つ

て安泰なり、諸人奇異なりと感ず。又近年天明元年九月十六日げうてん暁天に、寺内より出火して本堂および残らず回祿す、本尊も焼失しけると。院主檀越ども悲歎しける所、同じくひつじい坤の方藪かたやぶの中に安全として残り存す、諸人これを見て大に驚き靈驗遠近に著しければ群参する事夥し、諸人現在に見るの靈瑞なればいよく尊信厚かりき。本堂は其翌年正月に新はじめありて速に成就しぬ、是如来の応驗とやいふべき」

薬師堂やくしだう

〔同所半町ばかり南にあり、瑞光山宗林寺ずゑくわうそうりんじと号す。本尊薬師如来は、坐像三尺許にして行基ぎやうきの作なり、年歴詳ならず〕

大日堂だいにちだう

〔同所東側にあり、宗安寺そうあんじと号す。本尊は大日如来だいにちによらい、坐像三尺ばかり、弘法大師こうぼうだいしの作なり。又堂内に宝冠弥陀仏を安置す、恵心僧都ゑしんそうづの作なり。鳥羽法皇とばの御念持仏といふ。建立の年記詳ならず〕

恋塚こひづか

〔同所大日堂の南浄禅寺じやうぜんじの門前にあり。遠藤武者盛遠ゑんどうむしやもりとほが妻袈裟御前けさごぜんの塚なり、由縁は前編下鳥羽恋塚寺しもとばれんちようじの所にくはし。因レこレに略しぬ。傍に林道春撰ずる所の碑碣を立る、其序銘に曰、

鳥羽恋塚者。文覚為ニ源渡妻ニ所レ築也。初藤盛遠ニ彼婦ニ而無レ道レ劫ニ婦之母ニ為ニ媒レ徑也。母呼テ而告レ之。婦念不レ聴則

殺^{サン}レ母^ヲ不^ナ孝^{ナリ}。聽^ハ則^ツ棄^レ夫^ヲ不^ナ義^{ナリ}。噫^ア不^ナ孝^{ナリ}不^ナ義^{ナリ}吾^ガ生^ス不^レ如^シ死^ニ。欲^ス以^テ身^ヲ當^ル之^ニ。乃^チ佯^リ諾^シ曰^ク。請^フ失^レ我^ガ夫^ヲ而^テ後^ニ可^ク以^テ從^フ也^{ナリ}。
一^ニ夕^ニ在^リ閨^ニ新^ニ沐^テ而^テ臥^ス者^即是^{ナリ}矣^{ナリ}。我^ガ開^テ戸^ヲ而^テ待^ツ之^ヲ。盛^シ遠^ク約^シ去^ル。婦^ガ還^テ設^ケ酒^ヲ与^テ源^ノ渡^ニ相^シ獻^ス酬^ス。使^ム臥^ス於^ニ輿^ニ。婦^ガ自^ラ沐^ス臥^ス閨^ニ。夜^ニ闌^ニ盛^シ遠^ク果^シ到^リ斷^リ頭^ヲ持^チ去^ル。黎^ニ明^ニ視^レ之^ヲ則^シ婦^ノ之^ノ首^也。盛^シ遠^ク甚^ク哀^シ即^チ為^ル僧^ト。所^レ謂^フ文^覺是^也。其^レ後^ニ在^リ高^雄遙^ニ望^テ埋^メ婦^ノ之^ノ處^ヲ。名^ヲ曰^ク戀^塚。世^ノ俗^所傳^ル蓋^シ如^シ此^也。嗚^呼婦^ノ孝^ニ于^テ母^ノ義^ニ于^テ夫^ノ節^ニ于^テ其^ノ身^ニ。雖^モ丈^夫不^レ過^ル此^也。長^安大^昌里^ノ之^ノ節^女同^日之^ノ談^乎。秦^ノ之^ノ懷^情台^以貨^ヲ淮^ノ之^ノ漂^母墓^以恩^ヲ胡^地之^ノ青^塚以^テ怨^ヲ何^足比^レ之^哉。曹^娥之^ノ孝^漂水^女之^ノ貞^其碑^其名^古今^不レ^シ。此^ノ婦^ノ之^ノ名^亦然^乎。彼^ノ之^ノ戀^レ之^者在^リ色^耶在^リ節^耶不^レ可^ク不^レ扱^也。浮^屠之^ノ有^レ塔^銘猶^如碑^碣也。

銘曰

吁^ア節^{セツ}婦^ブ兮[。]

惟^{コレ}孝^{カウ}惟^{フレ}義^ギ。

石^{イシ}可^{ベシ}泯^{ホロフ}兮[。]

貞^{テイ}名^{メイ}不^レ已^{ヤマ}。

正保四年十一月二十九日

羅山子撰

願主 永井日向守直清